

英米文化学会 第178回例会  
(例会担当理事：河内裕二)

日時：2026年6月13日(土)午後3時00分～  
午後2時30分受付開始

場所：大東文化会館(東京都板橋区徳丸2-4-21)  
3階K-302教室&Zoom\*

\*大東文化会館を会場として使用し、同時にオンライン(Zoom)によるハイフレックス開催の予定。

非会員でZoom参加を希望される方は、お名前とご所属を明記し参加希望のメールを事務局 MichioTajima(at)SES-online.jp(注：@を(at)に書き換えてあります)までお送りください。ミーティングIDとパスコードをお伝えします。

開会挨拶

(3:00-)

英米文化学会会長 田嶋倫雄 (日本大学)

研究発表

日本人英語使用専門職の学習動機・心理的特徴・学習行動の調査  
—自己決定理論に基づく分析

(3:10-4:00)

発表 横井昌子(名古屋市教育委員会)

司会 田嶋倫雄(日本大学)

閉会挨拶

(4:00-)

英米文化学会副会長 河内裕二(尚美学園大学)

総会

(4:10-)

発表抄録

日本人英語使用専門職の学習動機・心理的特徴・学習行動の調査  
—自己決定理論に基づく分析

横井昌子（名古屋市教育委員会）

自己決定理論を理論的枠組みとし、日英通訳者・翻訳者・英語教育者 119 名を対象に、英語学習動機づけ、基本的心理欲求、学習行動および学習成果の関連を検討した。質問紙では、英語学習動機づけ尺度、基本的心理欲求の満足度、学習行動（学習継続期間・学習頻度）および学習成果（使用頻度・英語力の自己評価・現在の英語レベル（CEFR））を調査した。一要因分散分析、相関分析、t 検定を行った結果、職種間で無動機・有能感・自律性に有意差が認められた。また、有能感は学習頻度・使用頻度・英語力の自己評価・現在の英語レベル（CEFR）のそれぞれとの間に有意な正の相関を示した。一方、内発的動機は学習頻度との間に弱い相関を示したが、内発的動機と英語力の自己評価の間、および内発的動機と現在の英語レベル（CEFR）の間には相関は認められなかった。以上より、英語使用専門職者の学習行動および学習成果には、有能感が重要な役割を果たす可能性が示唆された。